

「統合リハビリテーション」創刊号に寄せて

一般社団法人 国際統合リハビリテーション協会

代表理事 森本義朗

一般社団法人国際統合リハビリテーション協会 (IAIR) は2011年より活動を開始し、臨床教育機関として全国で研修会を開催してきた。

本誌「統合リハビリテーション」はIAIRの活動をさらに学術性の高いものにするために発刊することとなった。その一方で、会員同士が臨床で得た少しの知見を集積・共有し、ワンケースの価値を高めつつ、投稿しやすい学術誌とする目的も兼ねている。

「統合リハビリテーション」とは、今までのような医学的リハビリテーションに限局された所謂「リハビリ」ではなく、社会的、教育的、職業的リハビリテーションの全てを支える「広義のリハビリテーション」である。本来のリハビリテーションの定義は広義のものであると考えるが、今までの多くの医療従事者にとって、「リハビリ」とは運動療法などを中心とした医学的リハビリテーションに限局されたものであるため、敢えて「統合リハビリテーション」と当協会では呼んでいる。

本来のリハビリテーションが我が国でも浸透していくことを心より望んでおり、それが実現した時にはこの学術誌も存在しなくなる。その日まで「統合リハビリテーション」を認知させ、その意味を理解した理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を広く教育していくことを至上課題としていく。本誌はそのために必要なものである。

創刊号となる今回、統合リハビリテーションの定義や「マルチファクター」「Narrative Based Medicine(NBM)」「Tissue Gliding Approach(TGA)」など、IAIRが非常に重要視している要素を含んだ内容となっている。また、IAIRの存在目的のひとつである、「社会貢献」の意味や実際のところについても言及している。また、症例報告も積極的に取り組み、ワンケースワンケースについて詳細に検討している。

IAIRが如何にサイエンスに基づく徒手療法であるのか、またワンケースを重要視してニュートラルなセラピストを育成しているのか、が詰まった創刊号となった。

我が国の時代背景を考慮しても、プライマリケア・在宅医療・終末期医療・地域包括ケアなど各地域でも積極的に取り組まれ始めている。

IAIRの提唱する「統合リハビリテーション」的思考を有する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の必要性はさらに高まっていくだけに、本誌にて多くのセラピストが学びを深めることを望んでいる。